



美 唄

B i b o i

'97年以来の暖冬に

道内はこの冬、気温の高い日が続いている。1月末現在、各地の平均気温は平年値より1、2度も高く、現時点では札幌管区气象台によると、今季は冬型の気圧配置が長続きせず、2月も気温は高めで推移しそうで、暖冬のまま冬は終わりそうという。22气象台、測候所の平均気温と平年値との差は12月は0.9度、1月が1.4度、最高気温が氷点下の真冬日の合計も1月末現在、札幌16日平年比12日減、帯広29日平年比6日減、釧路18日平年比8日減で稚内を除き平年を下回っている。2月6日の1ヶ月予報では2月の気温は第2週以降も平年並みが高い見込みで、この冬は暖冬の可能性が高いという。

暖冬の原因は、西高東低の冬型の気圧配置が安定しなかったため、今季の北海道は大変に珍しく発達しながら本道を通る低気圧が多く、この影響で冬型が長続きしなかったという。その上寒気の供給元の北極地方もガス欠で結構なことに寒気がたまらず、北海道付近への流れ込みが少ないという。こんな結果、降雪傾向も例年と異なり、オホーツク海側や十勝・釧路地方など、道内東半分の積雪は平年値を大きく上回り、北見市は百年に一度という程の大雪に見舞われたというのに、反対に例年雪の多い旭川・羽幌・留萌管内や空知管内は平年値を下回っているのは、地域在民としては後がおそろしいばかりで、春よ来い、早く来いと祈るばかりだ。

(雨田 実記)